

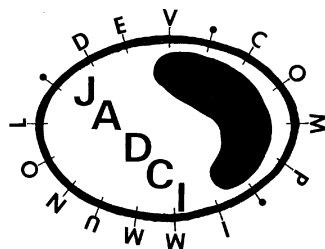
JADCI News

No. 31

2007. 5. 22

In This Issue

第19回学術集会
平成19年度古田賞募集



日本比較免疫学会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jadci/index.html>

目 次：

巻頭言：新興・再興感染症とスピリチュアルケア	吉田 彪 -----	3
花の下にて・・・・・・・・	古田恵美子 -----	5
第19回学術集会について 演題締切り近づく	-----	7
日本比較免疫学会賞（古田賞）募集	-----	8
新連載：Welcome to my lab!	-----	10
学会開催情報	-----	11
日本比較免疫学総会議事録（平成18年8月23日）	-----	13
事務局より	-----	15

日本比較免疫学会 役員

会長：吉田 彪（スピリチュアルケア研究所）
副会長：川畑俊一郎（九州大学）
庶務・会計：中尾実樹（九州大学）、補助役員 柚本智軌（九州大学）
学術集会担当：中村弘明（東京歯科大学）、山口恵一郎（独協医科大学）
英文抄録担当：飯島亮介（帝京大学）
ホームページ担当：広瀬裕一（琉球大学）
監査：友永 進（昇陽学園）、和合治久（埼玉医科大学）
*活性化委員会：中尾実樹（九州大学）、飯島亮介（帝京大学）、安住 薫（北海道大学）、阿部健之（日本大学）、谷合幹代子（農業生物資源研究所）木村美智代（埼玉医科大学）

発行者：日本比較免疫学会長 吉田 彪
事務局：庶務担当 中尾実樹
住所 〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
九州大学大学院農学研究院 水族生化学研究室内
事務局 e-mail: jadci2@agr.kyushu-u.ac.jp
jadci2office@gmail.com
電話 092-642-2894（ダイヤルイン） FAX 092-542-2897
郵便振替 口座番号 01730-9-80586
加入者名 日本比較免疫学会

新興・再興感染症とスピリチュアルケア

スピリチュアルケア研究所

吉田 彪

WHOが出している種々の報告や警告、日本では感染症研究所からの報告などに由れば、我々は様々な新興・再興感染症の危険にさらされている。再興感染症の一つ結核症を取ってみても、世界的には未だにマラリヤに次ぐ発病率や死亡率を持つ重大な感染症である。日本においても最近では患者数の減少どころかほぼ横ばいがある時は増加傾向を示している。その原因の一つは多剤耐性菌の出現で、どんな抗生物質にも抵抗する結核菌が出現していることが問題である。結核菌のみならず、いろいろな菌で薬剤耐性の機構に関する研究は少なくとも40年以上の歴史を持っていて、多くの興味深い成果を上げている。しかし、昔からの夢であった、耐性菌を感受性菌に戻す、あるいは変えることは未だに実現されず、今や新しい抗菌剤の発見は極めて稀であるから、これらの感染症への対策は覚束ない。

これとは全く異質の問題ではあるが、WHOがん専門委員会報告を1990年に纏めて「がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア」という小冊子が英文で刊行された。これをきっかけにして、日本でも遅れていたパリアティブ・ケア（緩和ケア或いは緩和医療）の体制が次第に整備されて、今では「がん」ばかりではなく各種の疾患の終末期医療にも適応されつつある。しかしながら、この報告書では「パリアティブ・ケアとは、治癒を目的とした治療に反応しなくなった疾患を持つ患者に対して行われる積極的な医療ケアであり、痛みのコントロール、痛み以外の諸症状のコントロール、心理的な問題（苦痛）、社会面の問題、霊的な（spiritual）問題解決がもっとも重要な課題となる。」と述べている。これはWHOの健康の定義（WO憲章前文）にある、身体的、精神的（心理的）並びに社会的な全ての面の健康のみならず、霊的（スピリチュアル、魂）側面の健康を取り上げている。そして、「パリアティブ・ケアの実施にあたっては人間として生きる事が持つスピリチュアルな側面を認識し、重視すべきである」とし、「霊的及び宗教的多様性を基本的価値として尊重し、これをパリアティブ・ケアに関するすべてのプログラムに組み入れるべきである。」と述べている。

このように長々とWHOの文書を引用したのは、日本では緩和医療において身体的な痛みのコントロールは欧米並みにかなり改善されて来たが、スピリチュアルな痛み（spiritual pain）に対するケアは現在でも極めて遅れていて、ホスピスや緩和病棟と称するところでもこの面のケアは余りなされていないの

が現状である。その理由はいくつも挙げられようが、根本的には日本の医療従事者の中でスピリチュアルケアに対する認識が低くその必要性が実感されていない。更に、たとえ必要性は認識していても、スピリチュアルケアを実践できる人（スピリチュアルケア・ワーカー）が見当たらないのである。そのようなワーカーを養成し供給しつつ、日本におけるスピリチュアルケアの啓蒙活動を行うことを目的として、「臨床パストラルケア教育研修センター」という組織がドイツ人神父のワルデマール・キッペス師によって丁度 10 年前に設立された。研修受講者は現在までに延べ 800 人以上であり、研修修了者は 500 人に近い。スピリチュアルケア・ワーカーとして資格認定されたものが 70 名ほどである。これらの方々全国各地に散らばっておられるのだが、病院やその他の医療施設でスピリチュアルケア・ワーカーとして働くことの出来ている方はごく少数であることも、残念ながら日本におけるスピリチュアルケアの認識の低さを示しているように思う。

このように、スピリチュアルケアは不治の病に罹ってしまったという「人生における危機」に直面した人が発する「痛みに対する魂の叫び」を聴き取りケアするということである。そのような「危機」は人生において単に病気になった時だけに遭遇するものではないのは言うに及ばない。そのような「危機」とはどういうものだろう。この文の冒頭において、我々の肉体を蝕む新興・再興感染症の蔓延について述べた。今、社会においては身体ではなく心や魂を蝕む病気とも思える状態が正に感染症の如くはびこり始めているのではないかと思われる。家庭内暴力は昔からあった問題だがそれが最近では再興感染症の如く増加していないだろうか。それどころかその解決への抵抗性を増すかのごとく、悪性の暴力ともいえるべき家族間の殺人なども驚くほど多く報道されている。学童間の「いじめ」の問題とその悪質化、小児の自殺の増加、不登校問題などに見られる当事者たちの「痛みの叫び」に誰かが早くから気付きケアに乗り出しているだろうか。先日、憲法第 9 条を改正する、しないの議論を扱った放送番組を見ていたら、いわゆるニートとして生活している若者達が「軍隊が出来て徴兵でもされた方が国のためになるのだから良い。今こうやってバイトしながら何の目的もなく生きているのは死んでいるのも同然だから」というような声を発しているのを聞いて唖然とした。ここで聴こえて来る、「自分はこんな状態で何故生きているのだろうか」という魂の叫びは、癌の末期患者や強制収容所に入れられた人々が発していた魂の叫びとどこが違うのであろう。このような恐ろしい感染症がわが国の青少年のなかに蔓延しないように、今こそスピリチュアルケアを日本に定着させなくてはならないのではなかろうか。

花の下にて・・・・・・・・



比較免疫学研究所

古田恵美子

風光る春だと言うのに、私の最も大切な友人の一人が彼岸に旅立った。彼の名は「日本比較免疫学会」の古くからの会員ならきっと知っている事と思う。何故なら講演要旨集の広告ページに毎回彼の名前と美しい筆跡の文章があったからである。きちんと広告料を支払って。彼は自分を宣伝したかったわけではなく、この貧乏学会に資金を出す名目にしてくれただけであった。

私が、新学会の土台作りに悲鳴をあげていた頃、物心共に支えてくれた人であった。彼は、大学書房と言う本屋の社長であったが、その中身は芸術家であり、哲学的人間でもあった。私と二人、よく彼のオフィスで宗教哲学を論じ、比較宗教学に花を咲かせた。最後は決まって、「いつ死にたいか」「どのように死にたいか」であったが、この問題は最も重要であるが、且つ又思い通りにはいかない事柄でもある。

この一年私は人生の終末に近い人々に関わってきた。多数の見ず知らずの人々の心の声を「聴き」、或る時はたった一日きりで去っていった人、5ヶ月間もこの古田に話を聞いてほしいと涙した人。ある人は症状が和らぎ、ある人は動かなかった手が動き、熱が下がり、そして何よりも喜ばしい事は、出会った人々が表情に明るさを取り戻した事であった。

如何なる人間も、「傍らに座し」、手を握って、自分の吐露する言葉（感情も）を受け入れ、共感してくれる人間が確実に存在することに、安心と満足を得ることが出来るものである事を、私は、この一年を通して実感してきた。最近の医療者は、触診する事すら極めて少なくなったように思う。あらゆるデータに基づいた結果を、ベッドサイドに立ったまま病人に説明し、治療方針を語る。若し彼らが病人の傍らに座り手を触れて、同じ行為をした時の病人の反応は全く違って来る事が、最近、心ある若い医療者の間にも理解され始めてきた。特に、終末期医療に関わっている医療者には、目を瞠るほどの違いを実感しているようである。

先日、ある集会で「心の声を聴き、目線を合わせ、手を添える」事が、終末期の病人に大きな安心感を与え、その後の症状が安定していく場合がある事を、私の体験として話した時、すぐに2～3の若い医師が「触診するだけでも違いがある」と述べていた。身近に迫った「死」は未知の事象であり、「此岸」から「彼岸」へのプロセスに大きな不安と恐怖がある。死に行く人の不安と恐怖は、「完全なる孤独」であるからだと、カトリックの聖人伝に記されていたのを読んだ記憶がある。

20世紀になって「聖人」とされたカトリック司祭、マキシミアン、コルベ（1894-1941）は、ポーランドでドイツ軍に捕らえられ、みせしめの為に「飢餓刑」を与えられたポーランドの男性の身代わりで、自ら刑に臨んだ人であった。彼の死後、コルベ神父はしばしば奇跡を顕したそうである。ガス室に失禁しながら引きづられて行く人の傍らに並んで、手を添えて歩く姿が大勢の人々に目撃されていた。その奇跡の証言が、彼をして「聖人」にしたのである。コルベ神父は、戦時中、仙台や長崎の教会でも布教活動をしていた人であった。

「死にゆく人に手を添える。」「貴方と伴にいる。」という行為こそ不安と恐怖から救う手助けになると私は思っている。人は、心の中に無理矢理閉じ込めた思いを吐き出し（effusion）、自己開示（self-disclosure）することで救われるものであると言う事を実感している。昨今、「いじめによる自殺」が増えている現状にたいして、我々は目を背けて居てもよい筈はない。

さて、大学書房社長と私の議論の最後は、西行への憧れであった。西行（1118-1190）は、死に場所、死に時を心に深く望んでいたようである。

願わくば 花の下にて 春死なん
そのきさらぎの 望月のころ 西行

西行は望んだ通り、きさらぎ望月（実は16日）に逝き、大学書房社長もきさらぎ7日に旅立ち、きさらぎ14日（4月1日）にお別れの儀式があった。西行も社長もまさに望んだ通りの死だったろうと思っている。

最近私は、細胞の死に方（Furuta et al., Zool. Sci.:2006, vol. 23）を論じ、人間の死にまで関わる哲学的（？）な生活になってきている。人生の足元に転がっていた石ころの中に、さぞ輝いていたであろうダイヤモンドをいくつも見逃しながら。先端技術の中の研究もさることながら、身近の何気も無い物の中の大発見が人々の心を揺るがすものではないだろうかなどと考えているこの頃である。



第19回 日本比較免疫学会学術集会
一般講演発表申し込みの締切りは6月8日(必着)です。

1. 会期と場所

平成19年8月21日(火)～23日(木) 浜松市舞阪文化センター

2. 集会長・事務局

東京大学大学院 農学生命科学研究科 附属水産実験所
鈴木讓・末武弘章

3. 特別講演およびシンポジウム

特別講演 「ヒトゲノム解読の生物学・医学へのインパクト」

清水信義教授(慶應義塾大学医学部)

シンポジウム 「ゲノムからみる比較免疫学」

「主要組織適合遺伝子複合体(MHC)領域におけるニワトリを含む脊椎動物の間のゲノム比較」 椎名隆(東海大医)

「トラフグゲノムが魚類免疫研究にもたらしたもの」 末武弘章(東大水実)

「メダカゲノムとその発生学への応用例」 武田洋幸(東大理)

「ホヤ大規模 DNA マイクロアレイを用いたポストゲノム研究の展開 -生命科学の基礎研究から環境科学の応用研究へ-」 安住薫(北大薬)

「カイコゲノムの特徴と生体防御」 嶋田透(東大農)

「ショウジョウバエにおける病原体認識と排除機構」 倉田祥一朗(東北大薬)

一般演題の発表申し込みをお待ちします。

講演要旨の書き方、発表・参加申し込みの手順などの詳細は、4月に配信致しました集会案内あるいは JADCI ホームページをご参照ください。



日本比較免疫学会古田賞 候補者募集

平成18年度日本比較免疫学会総会において、日本比較免疫学会賞として古田賞および古田奨励賞が制定されました。栄えある第1回受賞者として、中西照幸先生（日本大学）が選出され、受賞者記念講演が開催されました。

本年度も下記の要領で古田賞候補者を募集致します。自薦他薦を問わず、多くの会員の方々にご応募頂きますようお願い申し上げます。募集要項の詳細は、ホームページに掲載いたします。また、推薦書（大賞）の様式はJADCIホームページからダウンロードできます。締め切りは平成19年6月22日（金）必着でお願いいたします。

1. 日本比較免疫学会古田賞

比較免疫学の発展に寄与した研究に対して授与する。過去5年間程の論文に基づき選考し、その成果（あるいはその一部）が本学会の学術集会で発表されたものを対象とする。授賞式は総会時に行い、受賞者は原則として当年学術集会で受賞講演を行う。

2. 日本比較免疫学会古田奨励賞

本奨励賞は自薦他薦によるものではなく、当年の学術集会抄録から優秀なものを選考し、学術集会において表彰する。



第1回受賞講演および表彰式

日本比較免疫学会賞 授与規定

1. 賞の種類

日本比較免疫学会における賞は、古田賞および古田奨励賞の2種とする。

2. 賞の性格

古田賞：過去5年間程度の業績を基に、学術研究上特に優れた業績を上げ比較免疫学の発展に寄与した研究に対して授与する。

古田奨励賞：当年の学術集会抄録（一般演題発表者）から優秀なものに授与する。

3. 受賞者の資格

- 1) 受賞時に1年以上の会員経歴を有する会員を対象とする。
- 2) 古田賞受賞者は年齢を問わない。
- 3) 古田奨励賞受賞者は応募時において35歳未満とする。

4. 受賞件数

原則として古田賞および古田奨励賞それぞれ年1件以内とする。ただし、これらの賞にふさわしいと思われる該当者が居ない年には受賞者なしとする。

5. 選考方法

古田賞および古田奨励賞の選考は、別途定める学会賞選考委員会が行う。選考方法の詳細は、学会賞選考委員会が起案し、役員会の了承を得て決定する。

Welcome to my lab!

第1回

九州大学大学院農学研究院
生物機能科学部門
海洋生命化学講座
水族生化学研究室



先代の教授である矢野友紀先生が、およそ25年前に魚の補体に関する研究を始められて以来、当研究室は魚類を中心とした水産動物の免疫機構に関する生化学・分子生物学的研究を続けています。現在は、中尾実樹教授と柚本智軌助教が協力して、硬骨魚類における補体成分の多様性や細胞性免疫応答機構について分子・細胞レベルの研究を進めています。本研究室では、魚類で免疫学研究を推進するために、コイ科魚類をモデル動物として利用しています。具体的には、ゲノム情報が豊富なゼブラフィッシュ、タンパク質・細胞レベルでの実験に有利なコイ、そしてMHCに拘束される細胞性免疫の機能解析に欠かせないクローンギンブナを組み合わせ、これら3種で哺乳類におけるマウスに匹敵する様々な免疫学的解析を可能にしたいと考えています。私に関係する水産の分野では、養殖対象である水生生物（魚やエビなど）の感染症を免疫学的にコントロールすることが、食の安全・安心の面から重要視されています。したがって、免疫系の進化などの基礎的側面に対する興味は尽きない一方で、水産用ワクチン、アジュバント、免疫賦活剤などの開発などに比較免疫学研究の知見を還元することも当研究室の役割です。

学生諸君は、休日関係なく当番が回ってくる魚の世話は大変なようですが、ベトナムやエジプトからの留学生を含め和気あいあいとした雰囲気です。（上の写真は、学生主催の「柚本さんがパパになった」記念パーティーの一コマ。）

最近の研究テーマについては、下記の論文および研究室ホームページをご覧ください。

（文責 中尾実樹）

Nakao M, et al. Lectin pathway of bony fish complement: identification of two homologs of the mannose-binding lectin associated with MASP2 in the common carp (*Cyprinus carpio*). *J Immunol.* 2006; 177(8):5471-9.

Somamoto T, et al. Expression profiles of TCRbeta and CD8alpha mRNA correlate with virus-specific cell-mediated cytotoxic activity in ginbuna crucian carp. *Virology.* 2006; 348(2):370-7.

Homepage: <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/biosci-biotech/suizoku/>

学会開催情報

第8回日本比較3学会合同シンポジウム

会期:2007年10月13日(土) 9:00~11:45

場所:日光プリンスホテル(栃木県)

テーマ:「再生現象の比較生物学」

日本比較内分泌学会シンポジスト

「成体ほ乳類の脳で起こるニューロンの再生」

石 龍徳 (順天堂大学医学部)

「魚鱗の破壊・再生現象とメラトニンによる制御」

服部淳彦 (東京医科歯科大学)

座長: 塩田清二 (昭和大学医学部)

日本比較免疫学会シンポジスト

「再生への導入 -細胞死の機構-」 古田恵美子 (比較免疫学研究所)

「海産及び淡水棲プラナリアの再生における幹細胞の起原」

石田幸子 (弘前大学)

座長: 吉田彪 (スピリチュアルケア研究所)

日本比較生理生化学会シンポジスト

「ヒドラの散在神経系における神経再生の細胞・分子機構」

小泉 修 (福岡女子大学人間環境学部)

「成体イモリの網膜再生: FGFは再生誘導因子か?」

千葉親文 (筑波大学大学院生命環境科学研究科)

座長: 竹内浩昭 (静岡大学理学部)

当番学会: 日本比較内分泌学会

(日本比較内分泌学会の会期: 10月12日~13日)

第 44 回補体シンポジウム

会期:2007 年 8 月 24 日(金)～25 日(土)

会場:東海大学湘南校舎・松前記念館(平塚市北金目 1117)

抄録募集期間:2007 年 5 月 14 日(月)～6 月 30 日(土)

集会長:松下 操(東海大学工学部生命化学科)

特別講演

Kilpatrick, D. C. “Animal lectins in innate immunity”

Lee Bok Luel “The molecular recognition mechanism of fungal beta-1,3-glucan and bacterial peptidoglycan in the prophenoloxidase activation cascade”

ホームページ:<http://www.biol.s.u-tokyo.ac.jp/users/meneki/hotai/>

第 14 回国際免疫学会議

(14th International Congress of Immunology)

会期:2010 年 8 月 22 日～27 日

会場:神戸国際会議場、神戸国際展示場、神戸ポートピアホテル

会長:岸本忠三

共催:日本免疫学会

International Union of Immunological Societies

ホームページ: <http://www.ici2010.org/>

JADCI に関連する他の学会情報も積極的に News に掲載する予定です。皆様から寄せられる情報をお待ち申し上げます。

下記に JADCI 事務局アドレスへ、電子メールでお寄せください。

jadci2office@gmail.com

日本比較免疫学会第18回総会 議事録

日時：平成18年8月24日（木）13：00～13：45

場所：県立広島大学広島キャンパス

会長挨拶： 吉田彪会長

議長選出： 吉田彪会長

第18回学術集会会長の挨拶：藤井保学術集会長

報告事項

- (1) 会務報告（平成17年総会以降）（庶務・会計：中尾実樹）
 - ・ニュースの発行状況
 - 28号発行：17年11月11日に旧事務局から発行。
 - 29号発行：18年4月7日に新事務局から発行。A4版に刷新された。
 - ・本年の会員名簿は、11月にNewsと一緒に発行することが報告された。
- (2) 次期学術集会（第19回、2007年）について
（次期学術集会長代理：末武弘章・東大水実）
 - コンパクトで学生も参加し易い低額の形を念頭に、中身は充実した集会を計画したい旨の説明があった。
- (3) 次次期学術集会（第20回、2008年）について（会長：吉田彪）
 - 吉田彪集会長、中村弘明事務局長の体制で、東京で開催する。会場・会期は未定。第20回の記念となるような集会を考えたい旨の説明があった。
- (4) 日本比較三学会合同シンポジウムについて（副会長：川畑俊一郎）
 - 平成18年7月27日（木）に、比較生理生化学会を当番学会として、クリエート浜松（浜松市）において開催された。「比較生物学の現状と展望」というテーマのもと、JADCIから鈴木讓先生（東大院農）が「比較生物学研究のモデルとしてのフグ」、川畑俊一郎先生（九大院理）が「節足動物の自然免疫を担うタンパク質群の構造と機能」と題して講演した。吉田彪会長が座長を務め、100名前後の聴衆があった。
- (5) ISDCIについて
 - ・DCIのConference reportについて（抄録委員：飯島亮介）
 - 昨年(2005.8.24-26)のJADCI学術集会(集会長:伊藤正裕 東京医大)のConference Reportが、DCI 30: 851-854 (2006)に掲載された。18年度のConference reportも同様な形式で藤井保学術集会長がまとめる予定であると報告された。
 - ・アジア・オセアニア地区のVice-Presidentについて（庶務・会計：中尾実樹）
 - 和合治久先生の後をついで、中尾が就任した旨の報告があった。
 - ・10th ISDCI Congress (2006.7.1-6, Charleston, SC)について（事務局：中尾実樹）
 - 中尾が、History of ISDCIというセッションで、History of JADCIに関する15分間のプレゼンテーションを行った。
- (6) 活性化委員会について（庶務・会計：中尾実樹）
 - 未だまとまった答申を行うには至っていない現状が説明された。加えて、吉田会長から、皆様からの意見をメール・電話等で寄せて欲しいとの呼びかけがなされた。

審議事項

- (1) 平成17年度の会計決算（17年度事務局：大竹伸一）

平成17年度の会計決算の報告がなされた[総収入：1,828,267円(前年度繰越金1,318,767円を含む)、総支出：556,178円、次年度への繰越金1,272,089円]。

(2) 平成17年度会計監査報告(会計監査：友永 進)

友永進会計監査、吉田彪会計監査が監査を行った結果、収支ともに適正であり、関係書類も完備されていた旨の報告がなされ、総会出席者により拍手をもって承認された。

(3) 平成18年度予算案(庶務・会計：中尾実樹)

平成18年度の予算案の説明があり、総会出席者により拍手をもって承認された。

(4) News等の電子媒体化について(庶務・会計 中尾実樹)

メール便・郵便料金のコストダウンを図るため、News等をPDF版としてメールの添付書類として配信する方向で準備を進めたい旨、説明があった。ホームページの充実もさらに推進できるよう、技術的な問題を検討することが報告された。

(5) 日本比較免疫学会古田賞の制定について(会長：吉田彪)

古田恵美子前会長のご寄付を受け、本年4月の役員会で制定を決定した「古田賞／古田奨励賞」を、学会賞[日本比較免疫学会 古田賞／古田奨励賞]として制定することが会則の改訂案(1)とともに承認された。

(6) 名誉会長の推挙について(会長：吉田彪)

古田恵美子前会長の名誉会長への推挙が会則の改訂案(2)とともに承認された。

日本比較免疫学会会則(第18回学術集会講演要旨集 p 45)

*改訂案(1)

III. 事業

1. 本会は、その目的を達成するため、次の事業を行う。

1) 学術集会の開催

2) 学術集会 Abstract 集の発行

3) News の発行

4) 国際比較免疫学会との交流

5) アジア・オセアニア地区研究者との交流

6) 日本比較免疫学会古田賞および古田奨励賞受賞者の選考と表彰

7) その他、本会の目的に必要なと認められる事業

附則

6. 古田賞および古田奨励賞の選考に係る詳細は別途定める。

*改訂案(2)

IV. 会員

2. 名誉会長・名誉会員は本人の了承を得て、役員会が推薦し、総会で承認を得て決定する。

1) 尚、名誉会長・名誉会員は年会費および学術集会費を免除される。

事務局より

*会員メールアドレスの試用にご協力を

おかげさまで、多くの会員のメールアドレスを集めることができました。今後、Newsの配信などJADCIのコミュニケーションの多くを電子化して参ります。

また、今後さらにJADCIホームページを活用したいと考えております。ホームページに対するご意見をお寄せください。

*JADCI Newsの表紙およびページデザイン募集

Newsの表紙デザイン案、および表紙を飾る写真・イラストを募集致します。また、Newsのページデザイン案も募集致します。JADCI会員の情報交換の媒体にふさわしい、美しいNewsの作成にご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

*所属・住所が変わったら至急ご連絡を！

News等の送付に宅配便を利用しております。転送ができませんので、宛先となる所属や住所に変更が生じた場合には、学会事務局まで至急ご連絡ください。e-mailかFaxでお願いいたします。書式は特にありませんが、下記の情報をいただけますと助かります。

氏名、住所、所属、電話/FAX番号、メールアドレス

*Newsへの寄稿を募集しております。

エッセイ、学会参加記、JADCIへのご意見・ご提言などをお待ちいたします。庶務担当中尾までお寄せ下さい。また、Newsを充実させるため、その構成や編集についてのご意見も歓迎いたします。

様式/書式につきましては、事務局までメールでお問い合わせください。

*新会員の入会を歓迎いたします。

会員の皆様のお近くに、比較免疫学にご興味の方がおられましたら、本学会への入会をぜひともお薦めいただけますようお願い申し上げます。入会の手続きにつきましては、次ページの案内をご覧ください。



JADCI 入会手続きのご案内

下記入会申込書をコピーしてご利用下さい。
あるいは下記の内容をメールでお送りくださっても結構です。

入会金不要、年会費 3000 円 (入会申込み頂ければ振替用紙をお送りします。)
送付先：日本比較免疫学会(JADCI)事務局
〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学大学院農学研究院
水族生化学研究室内
(お問合せは Tel 092-642-2894, または jadci2@agr.kyushu-u.ac.jp まで)

入会申込書

このたび日本比較免疫学会に入会したく、下記の通り申し込みます。

年 月 日

日本比較免疫学会

会長 吉田 彪 殿

氏名
同ローマ字
所属
会員種別：個人会員
連絡先 (〒 -) (所属先・自宅 一方を○で囲む)
TEL 内線 FAX
e-mail
専門分野